(1)花きの輸入(輸入割合増加の具体例:国内産及びコロンビア産カーネーションの比較)

○ 年間平均気温は日本とコロンビアでほとんど差はないが、月別で見ると、コロンビアは年間を通じてほぼ一定であり、加温施設等が不要。⇒設備費、光熱費(特に燃油)等が不要。

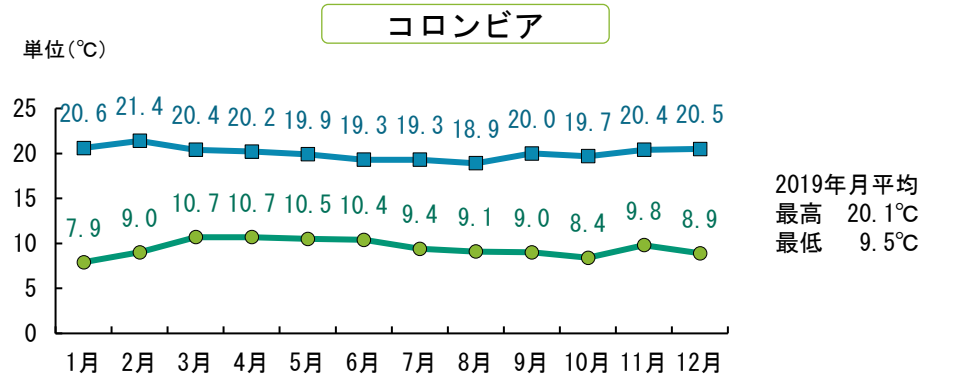
○ コロンビアは四季がないため、生産地が季節で移動することなく、周年で安定供給が可能。
また、1日の寒暖の差が大きく、カーネーションの発色や生育には最適。

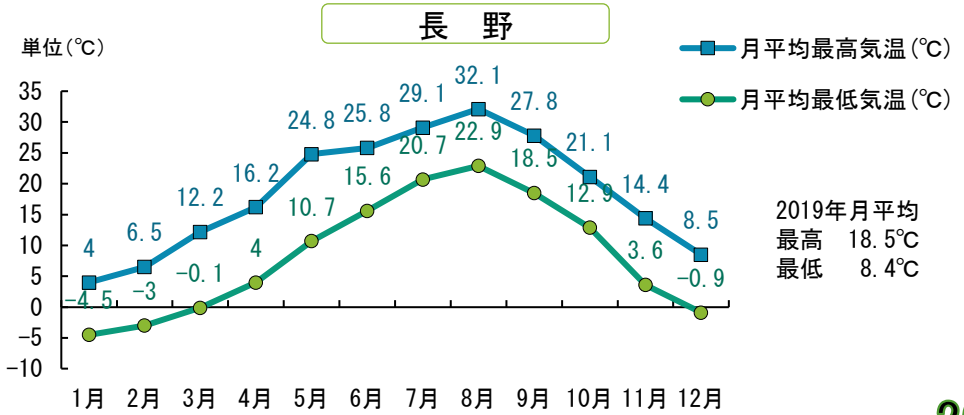
○ コロンビアの花き生産は、アメリカによる転作指導、コロンビア政府の国内治安改善策がうまく合致したことからスタート。

カーネーションの生産概況の対比

	日本	コロンビア
面積	271ha (2019年)	888ha (2018年)
産出額	99億円 (2019年)	260億円 (2019年輸出額)※1 (うち対日輸出額75億円)
年間平均気温※2	最高18.5℃ 最低8.4℃	最高20.1℃ 最低9.5℃
標高※2	1,500m前後	約2,600m

平均気温の比較





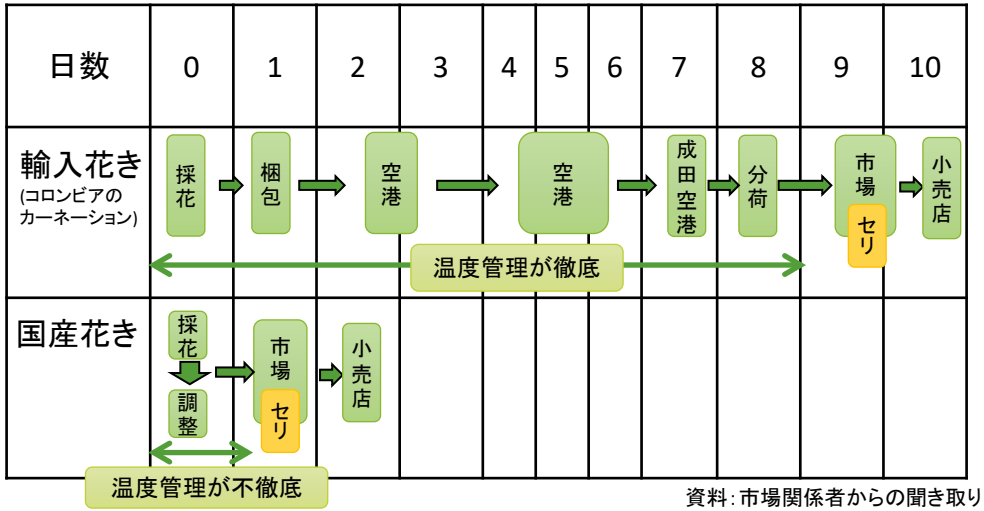
※1 1ユーロ=123.57円とした(2019年平均外国為替相場より(三菱UFJリサーチ&コンサルティング調べ))
※2 年間平均気温、標高は長野及びボゴタの生産地近辺のもの
資料:農林水産省「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」(面積、産出額)、財務省貿易統計
International Statistics Flowers and Plants 2020(AIPH出版)(面積、コロンビア輸出額)
国土交通省気象庁「世界の天候データツール」(平均気温、標高)

＜参考＞花きの国産シェアの奪還！－日持ちの良さなど国産花きの強みを生かせる流通体制の確立－

○ 輸入花きからシェアを奪還するには、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすことが重要。

○ 消費者が品質として重視する「日持ち」を良くするために、①温度管理（コールドチェーンの確立）、②衛生管理、③鮮度保持剤の使用等を生産・流通・小売各段階で徹底。

＜国産花と輸入花の採花から小売店までの期間＞



資料：市場関係者からの聞き取り

※花き産業総合認証（Milieu Programma Sierteelt）
花き生産業者、流通業者が行っている環境、法令、品質等の基準に適合した生産や流通を行っていることを認証するシステム

～切り花輸出先進国ケニアの事例～

- 外貨獲得のため、国策としてバラを中心とした切り花の生産及び輸出を振興。オランダ、コロンビア、エクアドルに次ぐ世界第4位の切り花輸出大国。
- ケニア統一ブランドを立ち上げ、EUにおいてオールケニアでの共通プロモーションを実施。
- 生産者が生産から加工、輸送、海外マーケティング、ブランディングまで完結した取組。
- MPS※等環境認証への取組も積極的。

産地で輸出先国のニーズに合わせた生産・加工

産地から空港までコールドチェーンを完備

産地の保冷庫

生産者の保冷車

空港隣接の検疫所の保冷庫

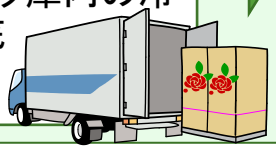
花の鮮度・日持ち性をより向上する流通体制の確立

産　地

・採花後の前処理（抗菌剤等で水揚げ）の実施
・出荷前の温度管理（低温保管）等の徹底

市　場

・配送施設、卸売場の低温化
・輸送時の温度管理（積載前のトラック庫内の冷却等）の徹底



小売店

・市場から店舗まで搬送時の温度上昇の防止
・入荷時の適切な水揚げの実施、低温ショーケースの利用等

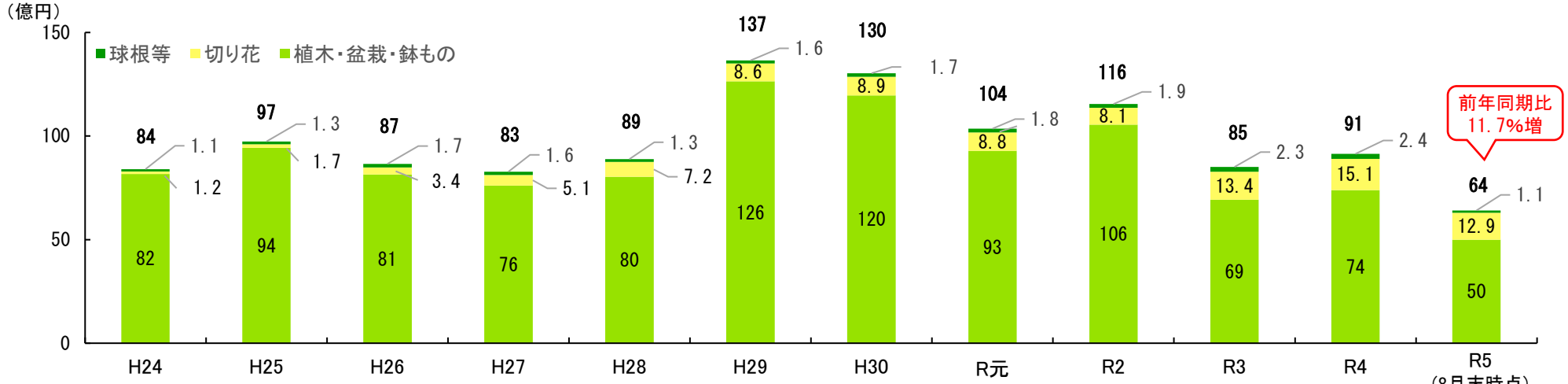
産地表示、日持ち保証販売により国産の強みを強調

(2)花きの輸出(現状と目標)

○ 令和4年の花き全体の輸出額は、対前年比で7%増の91億円となった。また、輸出重点品目である切り花については、対前年比で13%増の15億円。

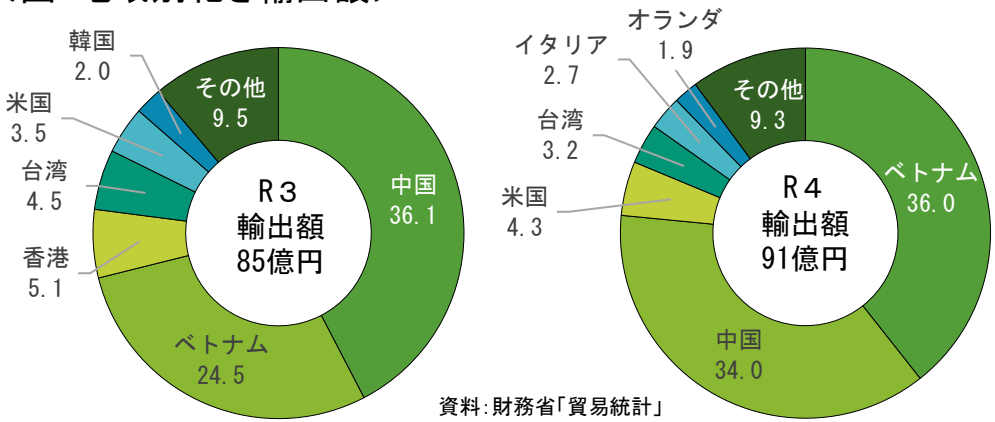
○ 「新たな花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」(令和2年4月21日公表)において、令和12年の目標として輸出額200億円を目指すこととしている。

＜花き輸出額＞



資料:財務省「貿易統計」

＜国・地域別花き輸出額＞



資料:財務省「貿易統計」

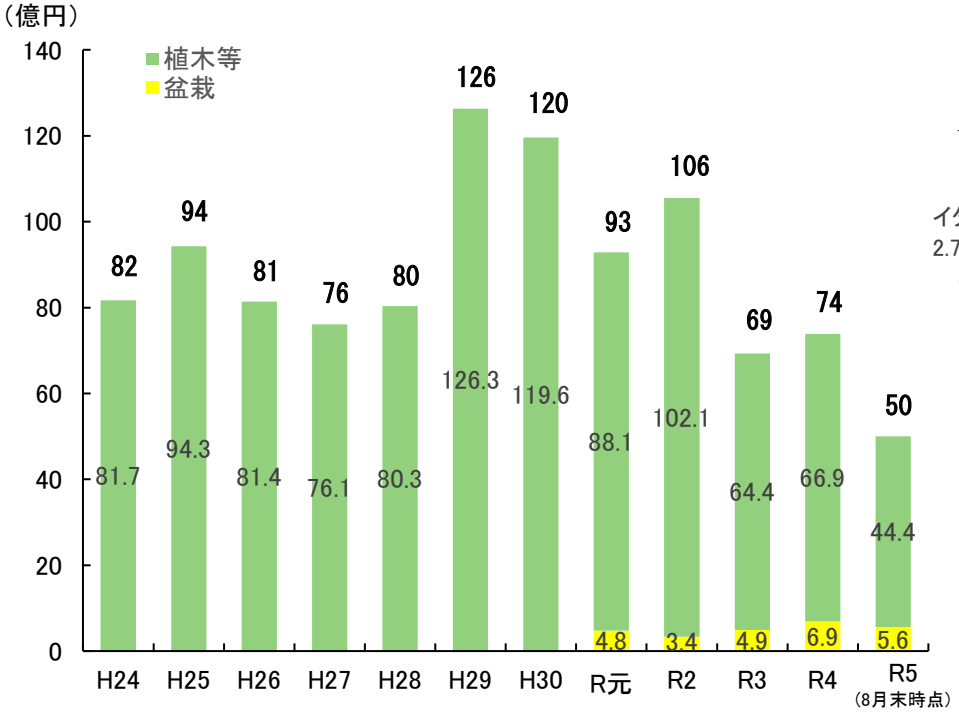
(写真)
日本産花きを使った
デモンストレーション(米国)

(2)花きの輸出(植木・盆栽等の輸出)

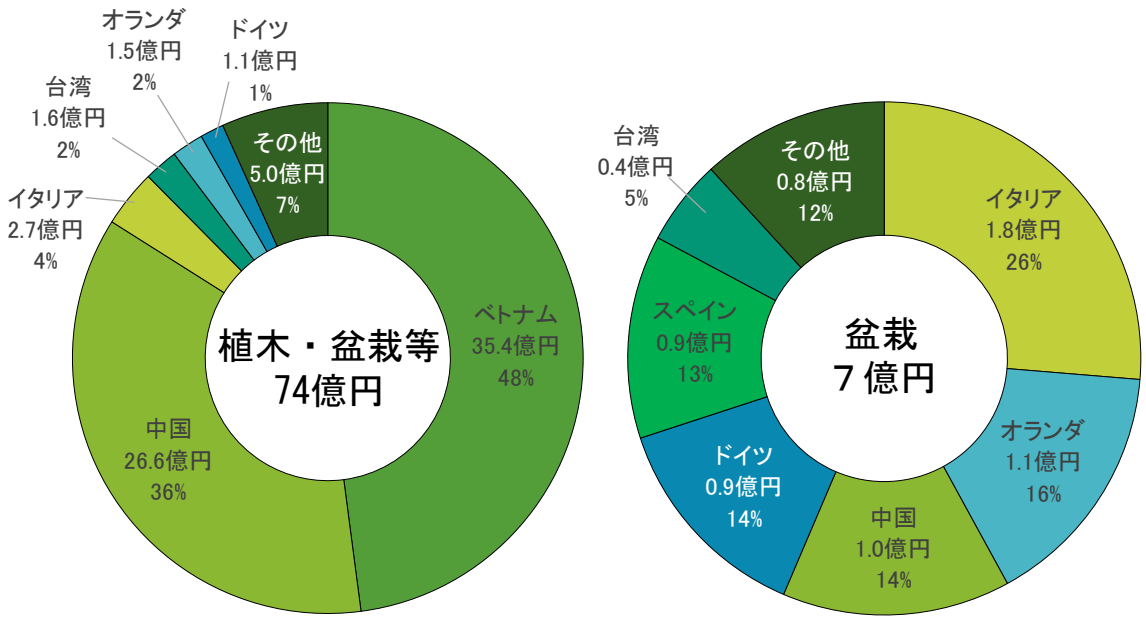
○ 植木・盆栽等の輸出額のうちベトナムと中国の2国で8割を占める。主要な輸出先国である中国において人気の高いイヌマキ植木の輸出が検疫等の事情により中断していることから、植木の輸出額は令和3年度以降減少している。

○ 一方、盆栽の輸出額については、EU向けクロマツ盆栽の輸出解禁(令和2年10月1日解禁)等が追い風となり、輸出額が増加。

＜植木・盆栽・鉢ものの輸出額＞



＜植木・盆栽・鉢ものの輸出額(国・地域別)(令和4年)＞

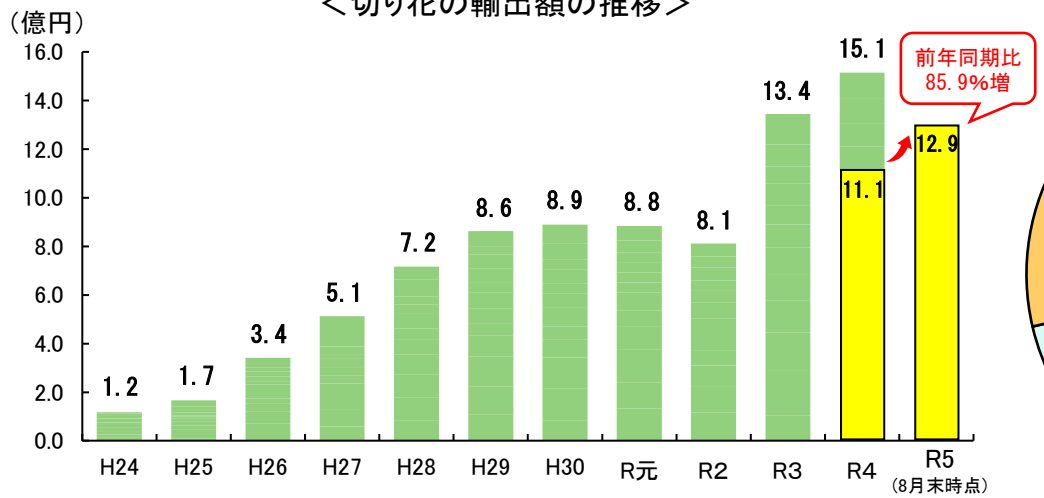


資料:財務省「貿易統計」
※HSコード
植木等:0602.30-000, 0602.40-000, 0602.90-190, 0602.90-900
盆栽:0602.90-110
植木・盆栽等:0602.30-000, 0602.40-000, 0602.90-110, 0602.90-190, 0602.90-900

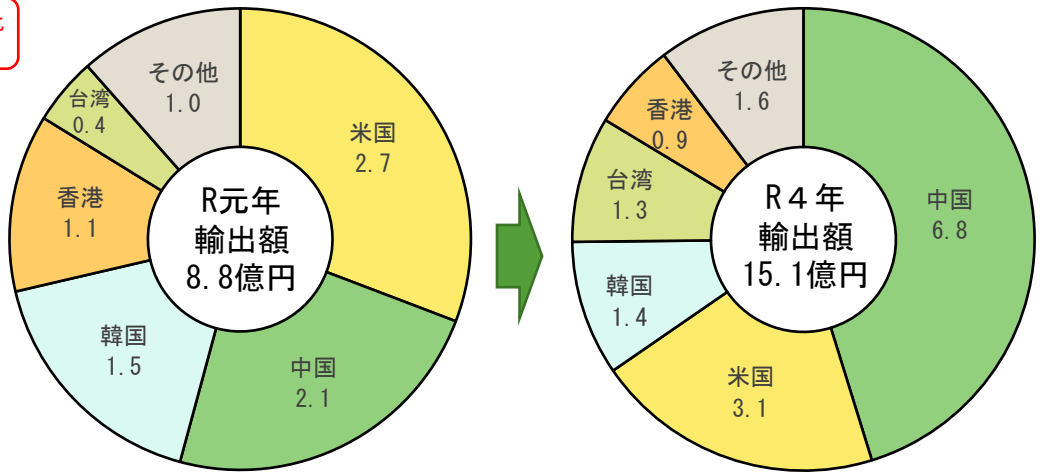
(2)花きの輸出(切り花の輸出)

- ○ 令和4年の切り花輸出額は、15億円で前年と比べ約13%増加。
- ○ 近年では、近隣アジア各国向けの輸出が増加しており、中国向け輸出額は6.8億円と令和元年から約3倍増加。
- ○ 主な輸出品目はスイートピー、グロリオサなどの花のほか、中国ではアセビなどの切り枝も人気がある。

＜切り花の輸出額の推移＞

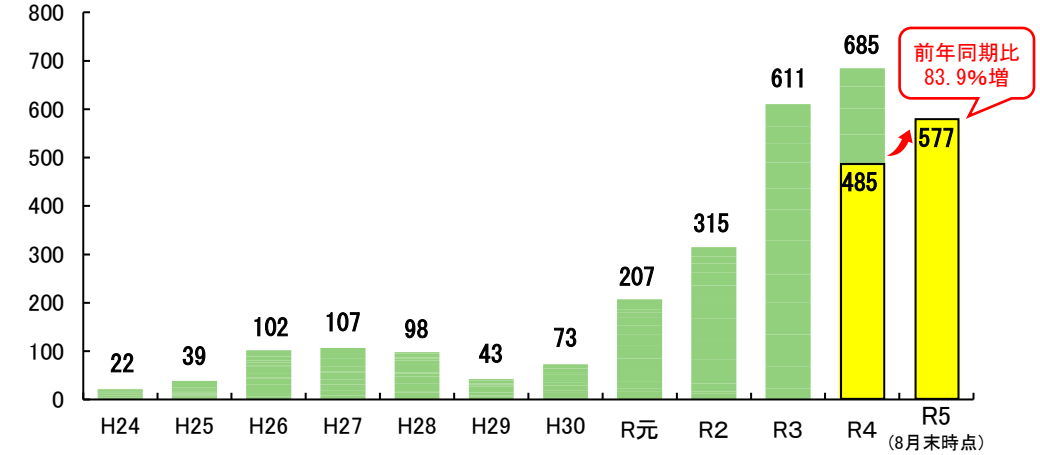


＜切り花の輸出額(国・地域別)の推移(令和元年・令和4年)＞



資料:財務省「貿易統計」

＜中国への切り花の輸出額の推移＞



資料:財務省「貿易統計」

＜切り花の輸出品目の例＞

（2）花きの輸出（花きの輸出戦略）

○ 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」においては切り花を輸出重点品目に位置付け、令和7年までに輸出額を18.8億円とする目標を設定し、輸出対象国ごとの課題対応や輸出産地の育成等を推進。
○ 切り花など花きの輸出拡大に向けて、生産から販売に至る関係者で構成される「全国花き輸出拡大協議会」がオールジャパンでの日本産花きの海外等でのPR活動を実施。

〈切り花の輸出額目標と実績〉

2019（R元）年（実績）	2020（R2）年（実績）	2021（R3）年（実績）	2022（R4）年（実績）
8.8億円	8.1億円	13.4億円	15.1億円

2025（R7）年目標
18.8億円

〈輸出先国別課題等への対応〉

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
米国	2.7億円	5.9億円	・米国で需要が高く、冬から春先に出荷されるスイートピーについて、生産性・品質の維持・向上や出荷時期の長期化等の取組を推進
中国	2.1億円	4.8億円	・中国で需要の高い切り枝について、山採りから平地等での栽培への転換を推進
香港	1.1億円	2.2億円	・外出を控えがちな消費者に多様な購入手段を提供するための日本産食品等のＥＣサイトで花きを販売する取組等を推進
ＥＵ	0.4億円	1.8億円	・オランダに所在する世界最大の花市場における環境認証の要求に対応するため、輸出産地における認証取得のための取組を推進
その他	2.5億円	4.1億円	・ベトナム、シンガポール等の東南アジアや、ロシア、豪州等において、人気がある、リンドウ、ダリア、トルコギキョウ、シャクヤク等について、長期低温保管倉庫の整備等により需要期に合わせた出荷を推進

＜参考＞全国花き輸出拡大協議会の概要

○　全国花き輸出拡大協議会は、生産や流通・販売等の花き業界関係者で構成する任意団体として平成19年9月に設立。
○　令和4年10月に一般社団法人に移行するとともに、同年12月には輸出促進法に基づく認定農林水産物・食品輸出促進団体に認定。
○　同協議会には、生産団体や都道府県、輸出事業者など、令和5年10月時点で97の会員が加入。

（一般社団法人）全国花き輸出拡大協議会

JAPAN FLOWERS AND PLANTS EXPORT ASSOCIATION

設立：平成19年9月（法人設立：令和4年10月28日）

代表者：会長　宍倉孝行

会員数：97（令和5年10月時点）

〈令和5年度の取組計画〉

① 中東での販路拡大に向け、ドーハ国際園芸博覧会での花き展示等のPR活動や市場調査の実施

② 米国や欧州、アジア等での更なる輸出拡大に向け、花きの国際見本市等での花き展示や商談会等の販促活動

③ 新規輸出先国の開拓に向け、北欧やブルネイでの切り花等の輸出可能性調査等の実施といった取組を展開し、切り花等の花きの輸出額の増加、新規輸出先国の開拓につなげていく。

輸出拡大のためのこれまでの取組事例

オランダアルメーレ国際園芸博覧会での花き展示（R4年）

JFOODOと連携した切り花の海外市場調査（令和3年）

中国など海外バイヤーとのオンライン商談会（R2年度）

海外バイヤーの国内産地への招聘（R元年）